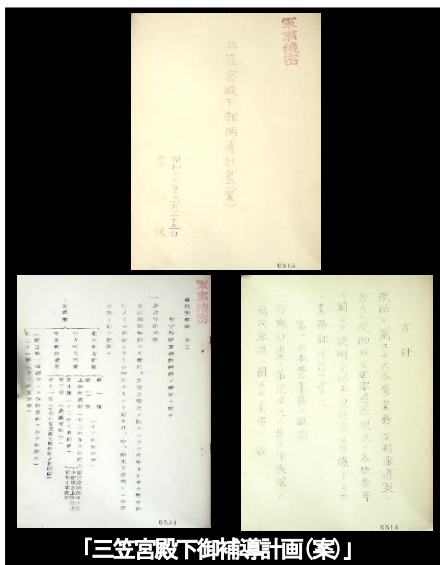


．．．．「史料のなかの軍人たち — 知られざる素顔 — 」．．．．

戦史研究センター史料室では、陸海軍軍人の中から毎月一人を取り上げて、その人物と関連する史料を紹介しています。

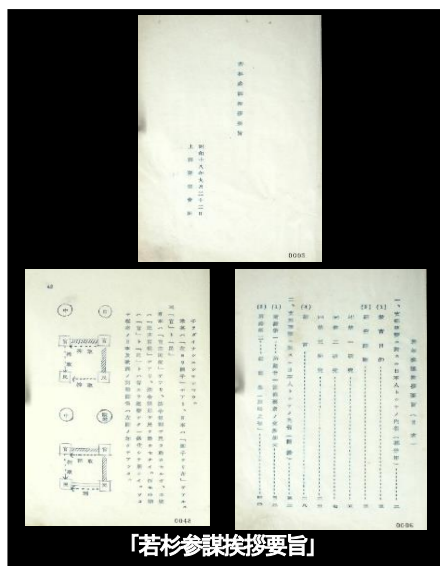
《 陸軍少佐 <sup>みかさのみやかひとしんのう</sup> 三笠宮崇仁親王 大正4年～平成28年 》  
— 大元帥の「賢弟」、秘匿名「若杉参謀」 —



「三笠宮殿下御輔導計画(案)」

### 戦史研究から支那派遣軍総司令部参謀への転任

大正天皇の第四皇子三笠宮は、昭和7年、学習院中等科4年終了とともに陸軍士官学校予科入校、11年本科を卒業(48期)します。騎兵学校を経て、13年8月には習志野の騎兵第15連隊中隊長心得となりますが、14年12月陸軍大学校に入校します。陸大教育の中で三笠宮の心をとらえたのは戦史でした。理論を強調する戦術に対して、戦史は血の通っている生きた人間の肌に触れる学問ゆえといえます。15年8月大尉に昇進し、大東亜戦争の始まる16年12月陸大を卒業(55期)しますが、三笠宮は引き続き同校研究部部員となり戦史を研究します。その後、18年1月、「若杉参謀」の秘匿名で南京の支那派遣軍総司令部参謀部第一課に転任します。その際、参謀本部第二課では、事前の御輔導のため中国での作戦経緯等の概要をまとめた左掲の史料を準備しました。



「若杉参謀挨拶要旨」

### 陸軍軍人の「内省」と「自肅」を促す

18年8月少佐に昇進した三笠宮は、兄である昭和天皇から新政策「大東亜戦争完遂の為の対支処理根本方針」を徹底し、中国の民心を収攬する旨の御言葉を拝し、中国ではその貫遂に努めます。19年1月には、大本営参謀(第二部英米課)に転任になりますが、離任を前に1月5日、天皇の意を体して、陸軍軍人の「内省」と「自肅」を促し中国戦線での認識の統一を図ることを目的に、直接、支那派遣軍の尉官及び参謀約150名を前に教育をします。左掲の史料は、このため三笠宮が作成したもので、結論には、軍人に欠如しているのは内省と謙譲であると記してあります。その後、19年9月陸軍機甲本部付、20年6月には航空総軍参謀(教育)に転任します。終戦直前、三笠宮のもとには、何とかして戦争継続を天皇に再考していただくよう、執拗な要請が再三ありましたが、三笠宮は断固としてこれを斥け、却って陸軍の反省を促されたと言われています。

### 《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)  
外線：03-3260-3011  
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>